

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 9-9
評価実施期間：平成 30 年 8 月 24 日～12 月 25 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060972 060672 B18018 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 30 年 10 月現在）

事業所名：木曾町立 きそふくしま保育園 (施設名)	種別：公立保育所	
代表者氏名：木曾町長 原 久仁男 (管理者氏名) (きそふくしま保育園長 松原 あゆみ)	定員 (利用人数)： 120 名	
設置主体：木曾町 経営主体：木曾町	開設 (指定) 年月日： 昭和・平成 26 年 12 月 1 日	
所在地：〒397-0002 長野県木曾郡木曾町新開 4236 番地 5		
電話番号：0264-22-2204	FAX 番号：0264-22-2155	
ホームページアドレス： https://www.town-kiso.com/kodomo/hoikuen/		
職員数	常勤職員： 24 名 (保育士) 20 名 (給食調理員) 4 名	非常勤職員 10 名 (保育士) 6 名 (給食調理員) 4 名
施設・設備 の概要	(居室数) 14	(設備等) 保育室・遊戯室・沐浴・洗濯室 調理室・研修室・休憩室

3 理念・基本方針

<p>*子ども一人一人を大切にし、保護者からも信頼され地域に愛される保育園を目指す</p> <p>①健康でたくましい子ども</p> <p>②自然に目を向け元気よく遊ぶ子ども</p> <p>③思いやりのある子ども</p> <p>④基本的生活習慣の身についた子ども</p> <p>⑤自己表現のできる子ども</p>
--

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

<ul style="list-style-type: none">・保育参加…一日保育士体験により子どもへの理解を得たり、子育ての楽しさを共有する。・園開放・庭開放…未就園児・その保護者に園を開放し、一緒に交流したり遊ぶ中で、子育ての悩みなどの相談を受ける。・運動遊び教室…専門の指導員により月 1 回年齢にあった運動プログラムを子どもと行い、健康な体づくりをする。・ALT 交流…町で採用している外国人教師と一緒に生活する中で、異文化に触れたり、親しみを持つ。・園内文庫を設置…絵本の貸し出しを通し、親子の触れ合いを持つきっかけづくりをしている。

・おじいちゃん先生…世代の違うおじいちゃん先生と触れ合うことで、子どもたちが昔からの知恵を教えてもらったり、受け入れてもらえる安心感を味わう。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

<自然環境を活かした活動>

日当たりの良い園庭に加えて、駐車場に面した入り口から鍵を開け、両側が林に囲まれた、やや急な下り坂を降りるとテニスコート跡地の第二園庭が広がっている。下り坂では、春には歩き方が不安定だった未満児や年少の子どもも、日々の上り下りから足取りが安定して元気なかけまわるほどに、身体発達が促されている。3歳以上の子どもにとっても春から秋にかけて草木や虫に親しめる自然豊かな遊び、冒険心をくすぐる環境がある。冬はそり遊びが楽しめる格好の斜面になっており、積雪期に子どもたちは、毎日そり遊びを楽しんでいる。高めのフェンスで周囲が囲まれ、そりで下った時のスピードや衝撃を和らげるために、重機を使って庭入り口の小山を整備し、安全への配慮をしている。畑づくりや泥んこ遊び、虫取り、花摘み等も楽しんでいるが、同時に野草の持つ生命力、周囲の小動物の習性や対応方法への学びの場でもある。

さらに、周辺にある林業大学の演習林、町体育館などに続く、田んぼの畦道を歩きながら散歩をしている。途中に見つけた紅葉した葉っぱや木の実を保育所に持ち帰り、工作して部屋に飾っている。

保育所周辺の自然環境を活かして子どもたちは、自然に触れて感動したり、自然の変化などを感じたり、身近な動植物に興味や関心を寄せて遊びを深めながら成長している。

<地域の方が訪れる保育所>

徒歩圏内に、看護専門学校、林業大学校等があり、各学校の生徒、学生とは、職場体験、実習、研究などのために年間を通して交流している。林業大学校の学生からは、園庭で子どもの前でのチェーンソーで木を切る実演、丸太棒や木の端切れの提供がある。子どもたちにとっては、学生と接して親しみ、様々な体験をする機会に恵まれている。町の支援により、おじいちゃん先生が毎週3日訪れ、遊んだり、食事をして過ごしたりしている。外国語指導助手も年間を通じて定期的に訪れ、遊びの中で英語や国際理解への取組をしている。高齢者のサロンの方々が訪れ交流する、消防隊、小中学生の演奏会を聞くなど、保育所で地域の人々などの自分たちの生活に関係の深い身近な人々と交流している。

子どもたちにとって、地域の方々の訪問は、地域に親しみを持ち、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養っている。

<おいしい給食>

給食は、和洋中様々で、季節の食材、伝統的な料理など多彩なメニューで、子どもや職員は毎日楽しみにしている。さらに、毎月の「予定こんだて表」には、レシピの紹介や食の情報もあり、実物大の給食の写真が毎日掲示されている。この家庭に向け

た取組は、保護者からの信頼が厚い項目である。給食室を上から見下ろせるような造りは、調理中の手の動きや調理過程を観察し、子どもの好奇心を刺激する場でもある。また、調理担当者が、子どもからの食の疑問に答え、反対に質問を投げかけ、様々な食べ物に関心を持つよう工夫している。食材は切り方を工夫し、調理員が子どもと一緒に食事を食べて、様子を見て、調理に反映している。時には、子どもが調理を体験する機会も設けている。汁物は椀のお椀、おやつに木製のお膳など地域の特産品を活用し、豊かな食文化への関心を高めている。また、アレルギーへの対応、衛生管理に対する研修、連携体制など食育計画にもとづいて継続的に取り組んでいる。

このように給食では、食事の楽しみが工夫され、おいしく安心・安全にも配慮された上で「食を営む力」の育成が図られている。

◇特に改善する必要があると思う点

<理念、基本方針の明示とその周知>

町立保育所合同の保育目標が策定されて事務室内に掲示されている。また、この目標にもとづいて、年間指導計画が作成され、保育が展開されている。これにより、保育に関する基本方針の明文化は確認できるが、職員や保護者への周知状況には課題が認められる。保育所の理念、基本方針は、保育所の保育に関する考え方や姿勢を示す重要な柱であり、保育への安心感や信頼を高めることにも繋がるため、十分な取組が求められる。そのためにも、職員への会議での説明や協議、入園説明会、保護者会の機会やおたより等を活用しての保護者への周知、さらに、保育所のパンフレットなどに明示した印刷物を作成し、地域住民等への周知の工夫も期待される。

<各種マニュアル・標準的実施方法の作成に期待したい>

保育所は、「危機管理マニュアル」「保育安全マニュアル」を整備している。安心安全な生活が確保されるための内容が中心であり、保育所運営や保育内容の標準的実施方法のために活用している。また、年度ごとに見直しもされているが、保育全般にわたっての、PDCAサイクルにもとづく質の向上への継続的な取組に繋がってはいない。

保育所では、保育全般にわたって、標準的な実施方法が適切に文書化され、それにもとづいた保育の実施が望まれる。職員による保育の水準・内容や対応方法の差異をできるだけ少なくし、一定の水準を確保するために、子ども・保護者のプライバシーへの配慮、設備等保育所の環境に応じた手順等も含まれ、全ての職員が理解することが求められている。また、マニュアル・標準的実地方法は、職員が常に確認できる場所に置くことが望ましく、今後、組織として検討し作成されることを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

平成31年1月21日記載

今年度、第三者評価を実施しました。専門家の視点で評価をいただき、日頃当たり前のように行っていることがマニュアル化されていない事や保護者への一層の周知などの指摘を受け、園として再確認する良い機会となりました。

保護者の皆様にはアンケートにご協力いただきありがとうございました。皆様からたくさんの温かいお言葉を頂きました。また、ご指摘いただいた事項に関しては真摯に受け止め、改善してまいります。

これからも地域交流の充実、自然環境を最大に活かすとともに、安心・安全を第一に、保育に携わる職員のより一層の連携を図り、保護者や地域の皆様に愛される保育園を目指します。

木曾町立 きそふくしま保育園長 園長 松原あゆみ